



セントポーリア

分類: イワタバコ科セントポーリア属

学名: *Saintpaulia ionantha*

和名: アフリカスミレ

英名: African violet

原産地: 中南アフリカ

1982年に、東アフリカ・タンザニアの高地でひっそりと咲いていたのを、自然愛好家のウォルター・フォン・セントポール・イレイイ男爵によって発見され、セントポーリア・イオナンタと名付けられました。イオナンタは「スミレの花のような」という意味です。



【特徴】 室内花の女王と呼ばれるセントポーリアは、花や葉の形、色の変化に富んで美しく、一年を通して室内で育てられることや、姿形がコンパクトでかわいらしいことが魅力です。花が美しいばかりでなく、生育環境が人に快適な室内と同じで18~25 が生育適温で、少ない用土で育ち、光量はレースのカーテン越しの日が良く、まさに室内で育てる花として理想的です。

スタンダード種、ミニチュア種(株の直径が15cm)、トレイラー種(この性質の原種と普通種との交配種)、オプチマ種(アジサイのような花)、縞花、斑入り葉などのグループがあります。

【株の選び方】 苗や開花株を購入するときは、できるだけ鉢数が多くそろっている専門店に行って、葉柄が短く株全体が締まっていて、中心の新しい葉が上を向いているもの。株全体の葉につやがあるもの。開花株の場合は、横から見て花茎がたくさんついているもの。以上のことに注意して選びます。

【植え替えと用土】 小さな鉢で育つセントポーリアはそのまま放置すると、土が目詰まりしたり酸性化するほか、老廃物がたまって生育を阻害します。少なくとも1年に2回は植え替えをします。春と秋のできるだけ花の少ないときに行います。根が細いセントポーリアの用土は水はけと保水性が良く軽いものが適しています。専用の培養土も売られていますし、自分で配合するときには、パーミキュライト6、ビーナスライト5号またはパーライト2、ピートモス2の割合で混合し、珪酸塩白土の粉とカキ殻片(小)を少量ずつ混ぜます。

【わき芽とわさび茎の処理】 葉のわきにわき芽が3cmくらいになったら先のとがったカッターナイフで切り取ります。下葉が取れて一見ワサビの茎が長くなったような状態を「わさび茎」と呼んでいますが、傷んだ下葉をとって葉のつけ根から良く切れるハサミで切り取ります。深めの受け皿に鉢を入れ、鉢底に珪酸塩白(粒)を一段式ならべ、これが浸るくらいに水をそそぎ、わき芽もわさび茎もともに切り口に珪酸塩白土の粉をつけて、切り口が水につかるように入れて、水さしをします。2~3週間で発根しますので、これを確認したら、用土を足して植えつけます。

【水やり】 3~4日に1回、たっぷりとやってください。水やりの水は育てている室温と同程度の水温の水(水道水をバケツに入れてセントポーリアを育てている部屋に一日置く)を与えて下さい。水の温度が10違うと、葉にリングスポットという薄黄色の斑点ができます。

【湿度】 50~60%が理想的ですが、30~40%でも花は咲きます。湿度を保ちやすいように、深めの受け皿にビーナスライト7号(パーライトでも可)を敷き詰め、その上に水やりした鉢を載せておくとビーナスライトが湿って、株全体の保湿に役立ちます。フラコンケースや丸ケース(透明のケース)に入れると保湿、保温効果があり、また、狭い場所でも積み重ねられます。

【病害虫】

ホコリダニ マラソン乳剤 3000 倍液散布 / ワタカイガラムシ 綿棒で除去 / オンシツコナジラミ、ネコナカイガラムシ DMTP 乳剤を散布 / スリップ(花の芯のまわりに見られるグレー色をした絹糸のような細い虫) アセフェート水和剤 1000 倍液を花に散布 / うどん粉病 キノキサリン系水和剤 1000 倍液散布